

## 国内研修報告書

今回の長崎への国内研修では、まちづくりに着目して研修を行いました。実際にその地域を訪れることで、まちづくりのきっかけや過程を学び、過疎地域の復興策を考える際の参考にすることが出来ると考えました。また、現地の方と関わることによって生の声を聞くことができ、行政機関と市民の考えの相違点などを把握することができるので、より実際のまちづくりの現状を知ることが出来ると考えました。そして、地域における課題等を第三者の視点から見つめることが出来るので、自分たちが将来まちづくりの問題を考える際に客観的に問題に取り組むことができ、授業では学びきれないまちづくりの根底を知り、自分たちの地域に置き換えてとらえることが出来ると考え研修を行うことにしました。今回の研修では、主に小値賀島と出島を訪れ、それぞれお話を伺いました。その2点にわけて研修についてまとめていこうと思います。

### 《小値賀島》

まず、1点目の小値賀島についてです。研修先に小値賀島を選んだ理由は、授業を通して学んだ地方のまちづくりの事例を、実際に自分たちの目で見て体験したいと考えたからです。また、実際に現地の人と関わりながら、住民の方のまちづくりに対する考えにも触れたいと思ったからです。その話を湯浅先生にしたところ、小値賀島をすすめられ、自分たちでも調べてみたところ興味がわいたため研修先に決定しました。

小値賀島までは、羽田空港から長崎空港まで飛行機で移動し、長崎空港から佐世保駅までは高速バス、佐世保港から小値賀島まではフェリー、というように到着するまでに10時間以上かかり遠かったです。1日目はあいにくの雨でしたが、佐世保駅周辺で名物の佐世保バーガーを食べました。そのあと、高速船の時間を待っていたところ、雨の影響で私たちが乗る予定だった高速船が運休するという知らせが入りました。結局1つあとのフェリーに乗ることができ、なんとか約3時間おくれて小値賀島に到着することができました。その日の夜は古民家レストランで夕食をとる予定でした。かなり遅れてしまったにもかかわらず、「フェリーは揺れたと思うけど、酔わなかった?」「長旅おつかれさま」などとやさしく迎えて下さり、人がとてもあたたかい島だなと思いました。せがきという小さな牡蠣やキジハタというお魚など、美味しい海の幸を堪能しました。

また、おぢかアイランドツーリズムの方が小値賀島港から古民家レストランまで送って下さり、その道中に島についていろいろと教えて下さりました。研修に行く前からメールでやりとりをしていましたが、とても親切で島の人の優しさに触れることが出来ました。

古民家は、隣に家などはなくどっしりとした雰囲気、別荘のようでした。自分たちで布団をしいてまるで修学旅行のようで楽しかったです。普段東京で暮らしていると、電車の音や車の音など常に音に囲まれて生活していますが、島では風の音や木のざわめきなど自然の音以外ほとんど聞こえず、まるで別の世界に来たようでした。その日は曇りで星が見えなかったのですが、まわりに街頭などはないため、晴れているときには星がきれいに見えると思うのでまた訪れたいと思いました。

2日目は朝、レンタサイクルをして自転車で島を散策しました。島のパン屋さんで朝食をとりました。島ならではの魚醤のじゃがバターパンや紫芋あんパンなどがありどれもおいしかったです。また、パン屋さんではお客さんと世間話などをしており、人と人の距離が近いのだな、と感じました。私たちがサイクリングをしている際にも、すれ違った島の方々が「おはよう」などと声をかけて下さり心があたたかくなりました。おぢかツーリズムの方いわく、島では誰にでもすれ違ったら挨拶をするし、旅行で来ている人などはすぐにわかるらしいです。そのため、島を出た子どもたちは東京などでもすれ違った人に挨拶をしてしまい間違いに戸惑ってしまうことがあるとのことでした。普段私たちがくらしている東京では体験することが出来ないと思うので貴重な経験でした。赤浜海岸や地ノ神島神社などを訪れました。赤浜海岸は名前の通り砂浜が赤く、海は透明で綺麗でした。地ノ神島神社はキリスト教と深く繋がりが有るそうです。昔、キリスト教を信仰している家族の父親がこの神社の氏子となり、表向きは神道を信仰しているようにみせて、裏では母親が子供などにキリスト教を布教していたようです。小値賀島の特徴として、外から来たものにあまり抵抗をもたずどんどん取り入れていくというのがあり、島の人は知っていたけれど気づいていないふりをしていたのではないとも言われているようです。

そして、島を出発する前に、おぢかアイランドツーリズムの方にお話を伺いました。小値賀島の市民の方の中には、自分の本業である漁業や農業で島に貢献したいというプライドなどもあり、なかなか観光業に積極的にかかわろうとしない方もいるようです。あくまでも第一優先は本業の第一産業であり、観光業は二の次だという考えも少なくないようです。その一方で、おもてなしの文化が根付いているため快く受け入れてくれる市民のかたもいるようです。小値賀島では古民家ステイのほかに民泊も行っており、協力してくれる家庭を見つけるために一軒ずつ説明をしてまわったそうです。なかなか集まらなかったため、民泊を受け入れたあとに、協力せざるを得ない状況を作りだしたそうです。小値賀島の魅力である人と人のつながりを観光業として活かすにあたって、住民の方との協力は必須であり、互いにうまくかかわっていく必要があるのだとわかりました。主となる観光名所がない小値賀島にとって、小値賀島ならではの生活を体験してもらい、リピーターを増やすという点を重要視していることが今の小値賀島の観光業を支えているのだなと思いました。小値賀島になじまないビジネスホテルなどは作らず、空き家となっていた古民家をリノベーションして宿泊施設としたところが小値賀島の魅力をより一層引き立てているのだと感じました。

## 《出島》

そして、2点目の出島についてです。出島を選んだ理由は、授業内で出島の復興プロジェクトについて学んだため、復興政策が行われた過程とその後の方針について話を聞いて、今後の地域分野における学習に役立てたいと考えたからです。

実際に出島を訪れて感じたことは、教科書で見た出島の写真とは違ってあまり島という感じがしないことです。周りも広く埋め立てられているためすぐ近くに土地があるためです。

また、出島の管轄は役所の方が行っているようで、出島の復元にあって、実際に出てきたものに忠実に再現することにこだわっているそうです。なので、外観のみで中は空っぽの建物もありました。逆にいえば、内装にあるものはすべて発掘調査により出てきたものなので、本当の出島を知ることが出来ます。出島にかかっている橋がとても近代的でおしゃれなものも、出島に来た人が「こんな橋だったのか」と勘違いをしないためだそうです。見た目こだわりのではなく、本当の出島を知ってほしいと忠実に再現するのがポイントなのだと思いました。

しかし、市役所で管轄しているからこそ「出島にそんなにお金を使うならもっと他に使え」などという意見もあるようで市民の理解を得ることが難点であり、ポイントなのだなとわかりました。その一方で、出島の範囲を広げる際などには土地の買収がしやすいというプラス面もあるようです。その際には、長い時間をかけて一軒一軒家をめぐり交渉を重ねたようで、たくさんの努力があるからこそ出島を維持し続けられるのだと思いました。

今回の研修では、小値賀島も出島もその場その場に合った工夫がなされていて、その地の強みや魅力をしっかりと理解し、活かすことが重要なのだとわかりました。そして、地域との結びつきが私たちの想像以上に強く、重要なキーになるのだとわかりました。